

村の確立

近世の村は、豊臣秀吉政権下の太閤検地により成立したといわれ、慶長9（1604）年の徳川家康政権下の再検地で各村の地籍が確定し、村が明確になりました。

行政区画を番号で表す ユニークな「大区・小区制」

明治4（1871）年の廃藩置県の改革により、翌5年に地方の行政区画を定める「大区・小区制」が施行されます。
これにより、県内は10の大区に編成され、那賀郡は第9大区となり、その下に10小区が設けられ、阿南市域は、第3小区から第9小区までに編成されました。かつては、村を番号で呼ぶ時代がありました。しかし、近代化を急ぐあまり、地方の実情に合わない制度であったため、明治11（1878）年に廃止されました。

明治の大合併

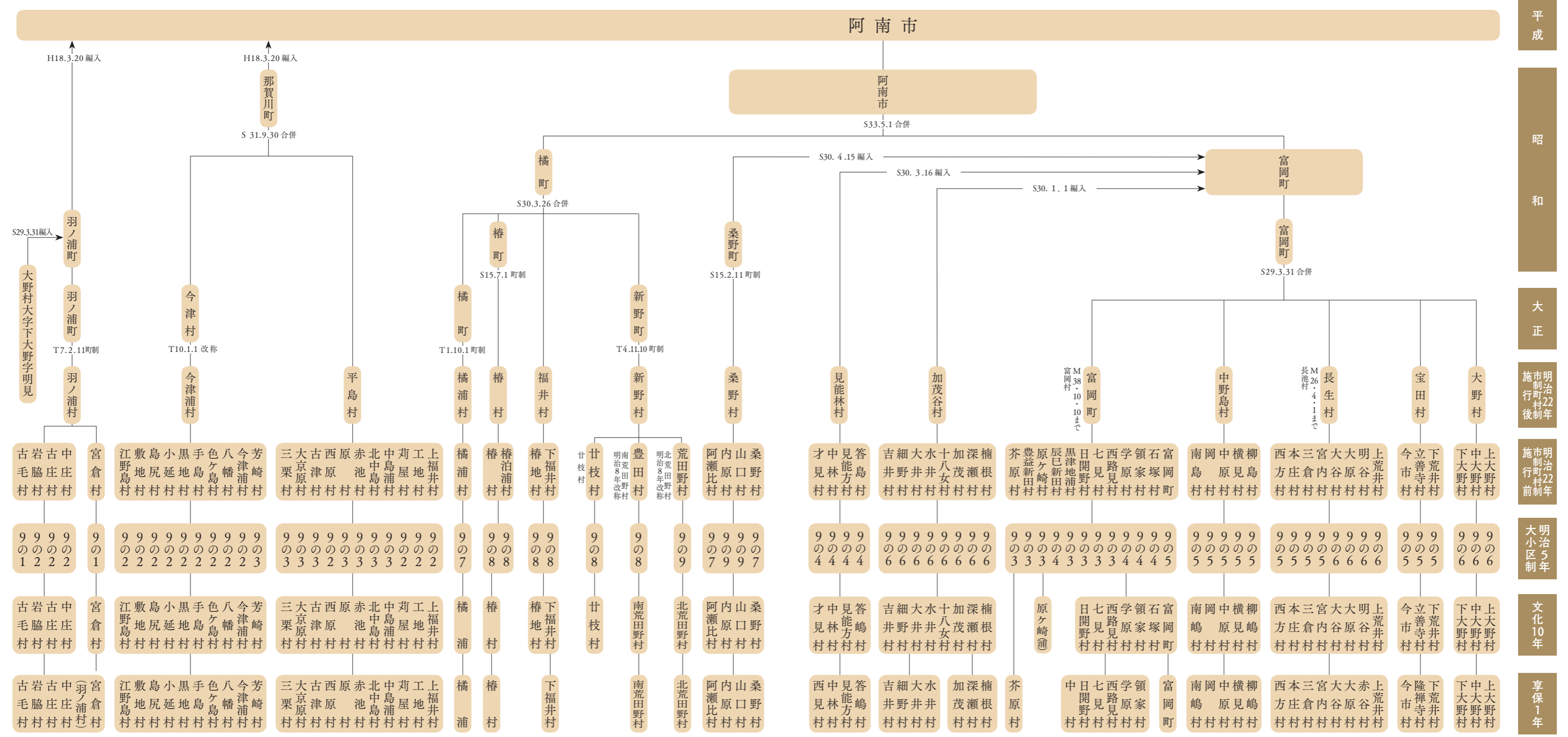
明治22年に「市制・町村制」が導入され、それまで阿南市域に55あった村が12に再編されました。いわゆる「明治の大合併」です。
新しい村名の付け方には、①合併した村は新しい名称を付けてよい②大きい村と小さい村との合併は、大きい村の名を付けてもよい③歴史的に著名な地名は保存する等の原則がありました。
この時、町制を敷いた村はありません。

昭和の合併 阿南市誕生

昭和28（1953）年、「町村合併推進法」の公布により、自治体の適正規模は8千人以上と規定され、町村合併が促進されました。
阿南市域では、昭和29年3月31日に富岡町など5か町村が合併し、新たに富岡町が誕生します。その翌年には、加茂谷村、見能林村、桑野村が富岡町に編入しました。また、昭和30年3月26日には、橘町など4か町村が合併し、新たに橘町が誕生。そして、昭和33年5月1日、富岡町と橘町が合併して阿南市が誕生しました。

平成の合併 新市誕生

地方分権の推進を図るための関係法令が整備され、各地で市町村合併が相次ぐ中、阿南市では、那賀川下流域のまちとして同じ生活・文化圏を有し、共に発展を遂げてきた那賀川町、羽ノ浦町との合併協議が成立し、8万人の人口を擁する新たな阿南市が誕生しました。昭和40年前後に模索された1市2町の合併は、半世紀の扉が開かれました。



平成
昭和
大正
明治22年
明治22年
明治5年
文化10年
享保1年